

清水寺の観光者

廣岡裕一

1 はじめに

本稿では、清水寺を観光地としてとらえた上で、清水寺を来訪する観光者についての傾向を分析する¹。

清水寺は、『京都市観光調査年報』によれば、市内観光地では、毎年最も高い訪問率が認められ京都を代表する観光地といえる。

しかし、訪問者の傾向は、『京都市観光調査年報』である程度は、うかがえるものの²、その特性については、十分に分析されているとはいえない。そこで、本稿では、『京都市観光調査年報』等の既存資料に筆者による調査を通じて、特に、募集型企画旅行によるその観光者の特性について論じてみる。

2 清水寺の概況

沿革³

清水寺学芸員横山正幸の『ガイドブック清水寺』によれば、清水寺の開創は、778（宝亀9）年、僧賢心が音羽山中の滝で練行していた観音の化身である行叡に会い、行叡の旧草庵に奉祀して開山したとされる。そして、798（延暦17）年、坂上田村麻呂の旧居を当てて、宝殿が建立され、十一面観音像が安置された。このとき、法号を北観音寺、世号を清水寺と称したとされる。清水とは、音羽の滝の清滝にちなんだものである。なお、舞台は、12世紀には構築されていたが、規模は小さいものの創建当初から構築されていたと考えられないこともない、とされる。

清水寺は、応仁の乱で全焼したが、再建され、そののち、織田信長、豊臣秀吉が大きな信仰を寄せた。江戸時代に入って、1629年に大火にあうが、徳川家光の寄進によって寛永年間に再建された。現在の諸堂塔は、ほとんどこの時期の建築である。寛永の焼失では、本尊を除きほとんどすべてを失ったが、本尊も焼失したとの噂が流れた。これを打ち消すため、清水寺では、秘仏とされていた本尊千手観音像の開帳を行った。御開帳の始まりである。

明治になり、神仏分離令が発せられ、地主神社が分離、独立した。廃仏毀釈の打撃は、庶民の強い観音信仰に支えられ大きな被害を受けずに済んだようだが、2度の社寺領上地（上知）令は、大きな打撃を与えた。特に、第二上地令は、地租改正の一環として行われ、境内主域を残してすべての上地が命ぜられた。

一方、古社寺の抱える膨大な建造物、美術品、庭園などの保護には、個々社寺や有志による民間団体の力では不十分で、次第に財政的な支援を求める声が高まり、内務省は、1895年、古社寺

保存協力金についての規則を定めた。さらに、1897年には文化財保存を目的とする初めての法律となる「古社寺保存法」が制定される。この制定により、「清水の舞台」で知られる本堂が特別保護建造物(国宝)の指定を受け、その修繕費として内務省から下付金を受けることになった。なお、1952年には、文化財保護法の制定にもとづいて新「国宝」の指定を受けている。

1914年、大西良慶が興福寺と兼務で晋山し、以後70年近く住持する。信者の絶大なる尊敬を得て、1965年、北法相宗を立宗独立する。

そして、1994年には、世界文化遺産⁴に登録され、1998年、創建1200年をむかえた。

・清水寺と観光の歴史

『ガイドブック清水寺』によれば、『枕草子』⁵にも記されているように、平安時代から賑わい、観音縁日の清水寺門前は、物売り・物乞いや芸能者が群集していた、としている。そして、鎌倉時代から室町時代にかけて、立売り・露店が常設的になり、門前町を形成するようになった。なお、平安時代から室町時代までの清水参道は、旧五条橋(現在の松原橋)で鴨川を渡り、八坂の塔の南を通って三年坂⁶を上って門前の参道に向かうものであった⁷。

一方、清水寺は、西国三十三所霊場第十六番札所であり、今日も西国三十三所の巡礼者が多く訪れる。『清水寺史 第一巻 通史(上)』によれば、信仰する聖の霊場に苦勞して直接赴く、その苦勞が修行の疑似体験になるのであるが、観音信仰は霊場を巡回する方式で発展した。これが成立したのは、花山法皇に求める説は霊場巡りを実践したという点で現実的ではないが、平安時代最末期には、成立していたとみられ、さらに、数は別としても、都の中などにまつられている観音を順番に巡るという信仰は意外に早く成立していた可能性もある⁸、としている。

これらのことから、清水寺は、すでに平安時代から多くの観光者が訪れる対象となっていたといえる。

そして、『清水寺史 第一巻 通史(上)』では、往時の記録が、室町時代末から桃山時代にかけて、応仁の乱の焼失から立ち直った清水寺は、最も数多くの参詣者が「殺到」する寺院になっていたことを物語っているとしている⁹。

江戸時代に入ると、現在の清水道が主要道路となり、月例縁日に加えて、千日詣・星降りや西国三十三所巡礼、そして、遊山で大層賑わい¹⁰、明治維新を迎えた頃には、清水坂界限は陶器商に代表される土産物屋で賑わいをみせた¹¹。

なお、三年坂上で清水坂と交わる角にあり、ガイドブック等にもよく紹介される七味家本舗は、明暦年間(1655～1659)に茶店を生業とする『河内屋』として創業している¹²。

また、五条坂は、明治期は竹藪道であったが、陶器試験場や伝習所が開設され、大正3年には新道(ちゃわん坂)が開通して南側にも門前町が発達した¹³。

このように、清水寺界限は、江戸時代から昭和初期にいたる間も、今日のような観光者による活況がみられていたと考えられる。

だが、太平洋戦争が激化してくると修学旅行をはじめ参詣者が激減し、灯火管制により市民の

夜詣りも禁止状態になった¹⁴。しかし、敗戦後すぐ、清水寺直轄の信者組織「音羽会」が結成されるなど、さっそく寺勢復興に取り組まれた¹⁵。また、戦後は、戦前には稀であった諸外国の国賓らの来山が頻繁になった¹⁶。

大正、昭和の清水寺は、大西良慶の指導によるところが大きく、戦後は、観光地としても国際的な地位を獲得したといえよう。

なお、1952年に、市営清水坂観光駐車場が整備され五条坂が主要道となり産寧坂¹⁷地区は地区を訪れる観光者は激減するが、昭和40年代に入り、産寧坂地区は、落ち着いたある歴史的な街並みとして評価され、再び賑わい始めた。そして、1972年、条例に基づく街並み保存制度である「産寧坂特別保全修景地区」に指定され、1975年には、文化庁により「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された¹⁸。なお、現在、この地域の町並みは主に近代になってからできたもので、特に道に面した小さな家は、大正初期ころまでに建ったものが多く、社寺の建造物は、八坂の塔を例外にして、古くて桃山時代、概して江戸時代のものである¹⁹。

しかし、戦後の混乱が落ち着くと、社寺の観光地としての集客力に財源を求める京都市による拝観者に対する課税に関する問題が繰り返される。

京都市は、「文化観光施設税」を1956年に実施し市内の有名社寺の拝観者に対し課税した。これには、半年間の拝観拒否を含む反対運動が展開され、7年半の期限付きで実施することで決着した。しかし、1964年、その期限がくると「文化財保護特別税」の名目で延長が企図された。これは、「この種の税は、今後いかなる名目においても、新設あるいは延長しない」との覚書のもと5年の期限で実施された。ところが、1983年、「古都保存協力税(古都税)」条例案が可決された。これに対して寺院側は、1985年の古都税実施以降、拝観停止などを行って1988年3月末をもって税を廃止させた²⁰。

バブル期において清水寺界隈も景観破壊の危機に面する。清水寺の景観の保全は、京都全体の自然と歴史的文化的景観の保存と相まって実現されてきた。とりわけ、清水寺は、門前町とは、不離一体であり、その町並み保存と繁栄が必須不可欠である²¹。この認識は、門前町側、清水寺側とももっている²²。夜の特別拝観の実施や古来の通夜拝観を部分的に宵参りとして復活していることなどは、門前会、境内茶屋、御用達会の協力によるものである²³。

そして、2003年には、「京都府、京都市、京都商工会議所、京都仏教会、(財)平安建都1200年記念協会、(社)京都市観光協会の6団体と東山地域の各種団体が協力し、オール京都の体制で、計画地域の地理的諸条件を生かし、京都がこれまで育んできた文化的要素や美意識を随所にちりばめた「灯り」と「花」による演出を基本手法にして、訪れる人々が「安らぎ」と「華やぎ」を体感できるようなスケールの大きな夜の時・空間を創出する。」²⁴という活動内容で清水寺門前町、三年坂を含む東山地区で「京都・花灯路」が実施され、現在にいたっている²⁵。

3 清水寺への観光者の動向

『京都市観光調査年報 平成 19 年』によれば、2007 年の清水寺への訪問率は、市内の観光地の中で最も高く訪問率は 21.2% である。性別では、女性より男性が、世代別では、概ね若年層のほうで、訪問率が高い²⁶。(表 1 参照)

表 1 京都市観光訪問客の訪問地 (2007 年) (%)

	総合	性別		年齢別					
		男	女	～19	20～	30～	40～	50～	60～
清水寺	21.2	23.8	19.0	71.9	25.6	26.4	24.4	21.1	15.7
嵐山	15.9	14.6	16.9	36.0	29.9	19.2	16.9	15.8	11.4
金閣寺	12.0	11.6	12.3	54.0	17.1	16.8	15.0	9.5	8.6
銀閣寺	9.7	10.4	9.2	18.0	8.5	2.4	15.0	10.5	9.3
南禅寺	9.5	11.6	7.7	18.0	8.5	12.0	16.9	10.5	5.0
高台寺	7.2	6.7	7.7	36.0	12.8	9.6	9.4	3.2	6.4
八坂神社	7.0	4.9	8.7	36.0	4.3	9.6	5.6	4.2	7.8
二条城	6.7	6.1	7.2	18.0	8.5	7.2	11.3	6.3	4.3
嵯峨野	6.4	6.1	6.7	0.0	12.8	4.8	5.6	7.4	5.7
鞍馬・貴船	6.1	7.9	4.1	18.0	4.3	4.8	7.5	4.2	6.4

出所：『京都市観光調査年報平成 19 年』（京都市産業観光局観光部観光企画課，2008）17 頁「市内訪問地調」より作成

また、過去 6 年間の推移をみても毎年トップであり、20% 台の訪問率を維持している。(表 2 参照)

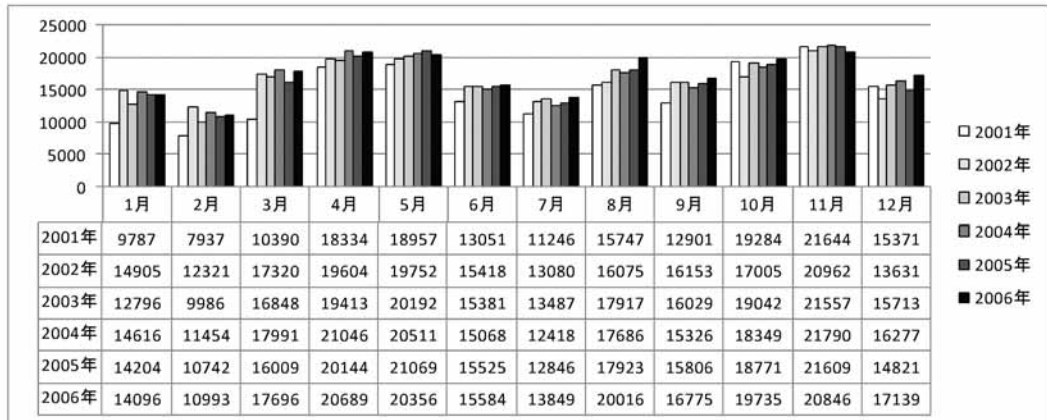
表 2 過去 6 年の京都市観光訪問客の訪問地の順位

	2007年	%	2006年	%	2005年	%	2004年	%	2003年	%	2002年	%
1	清水寺	21.2	清水寺	20.8	清水寺	22.1	清水寺	24.5	清水寺	29.8	清水寺	27.1
2	嵐山	15.9	嵐山	15.8	嵐山	15.6	嵐山	14.9	嵐山	16.8	嵐山	13.4
3	金閣寺	12.0	金閣寺	11.7	金閣寺	12.3	金閣寺	13.5	銀閣寺	15.3	銀閣寺	12.0
4	銀閣寺	9.7	銀閣寺	10.6	銀閣寺	11.6	銀閣寺	13.1	金閣寺	11.9	金閣寺	11.7
5	南禅寺	9.5	南禅寺	9.9	南禅寺	10.7	南禅寺	12.9	南禅寺	10.1	高台寺	8.7
6	高台寺	7.2	高台寺	8.5	高台寺	9.3	高台寺	10.5	高台寺	9.7	京都駅ビル	8.5
7	八坂神社	7.0	八坂神社	7.2	鞍馬・貴船	8.7	八坂神社	8.8	三十三間堂	8.7	国立博物館	8.2
8	二条城	6.7	嵯峨野	6.7	八坂神社	7.9	知恩院	6.7	八坂神社	8.4	二条城	7.9
9	嵯峨野	6.4	二条城	6.4	嵯峨野	6.4	二条城	6.5	二条城	7.6	京都市美術館	7.6
10	鞍馬・貴船	6.1	鞍馬・貴船	6.3	二条城	6.2	三十三間堂	6.0	知恩院	7.2	嵯峨野	7.6

出所：『京都市観光調査年報平成 19 年』（京都市産業観光局観光部観光企画課，2008）18 頁「市内訪問地調」より作成

一方、バスが駐車できる規模では、清水寺の最寄りの駐車場である、市営清水坂観光駐車場利用状況を見ると、2006 年では、4, 5, 8, 11 月で 20000 台を超えている。(図 1 参照) 図 1 の数は、すべての車種を含んだ数で、駐車された車に乗車していた人が、すべて清水寺を訪れるとはいえないが、清水寺訪問者の大まかな傾向は、みることができると考えられる。ただし、清水坂観光駐車場は、11 月には観光バス専用になる日があることは顧慮しておかなければならない²⁷。

図1 市営清水坂観光駐車場利用状況



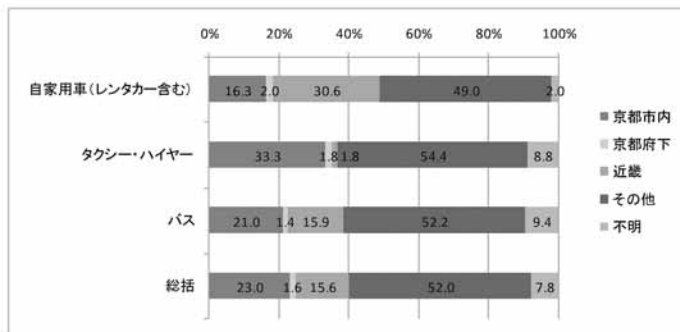
資料：京都市駐車場公社

出典：京都市統計書 / 第10章 文化・観光

http://www.city.kyoto.jp/sogo/toukei/Publish/YearBook/Chapter10.html (2008.7.20) より作成

また、1999年に京都市駐車場公社が実施した調査によれば、市営清水坂観光駐車場利用者は、自家用車に限れば、近畿地方を出発地とする利用者の割合が相対的に高くなるが、全車種をみると、過半数が近畿地方以外を出発地としていることになる。(図2参照) このことから、清水寺を中心とした地域は、全国的な観光地ということができよう。

図2 市営清水坂観光駐車場利用者の出発地



乗客の出発地

出所：『京都市内における第2回5観光地駐車場調査報告書』(京都市駐車場公社、1999) 12～15頁

『京都市観光調査年報 平成19年』では、2007年に京都市に訪れた観光客数は、4944万5千人としている²⁸。これに表1で示された清水寺の訪問率21.2%を乗ずると約1048万人となり、これが2007年の清水寺への訪問者数と推定することができる。しかし、今回清水寺で行なったヒアリングによれば²⁹、2000年に300万人を、2005年頃に400万人を超えて、2008年には500万人を達成できるのではないか、ということであった。最近の傾向としては、外国人が増えており、アジアの

ほか、ラテン系の外国人も増えているようであるとのことである。また、清水寺は、若年層の訪問率が高い傾向があることは先に示したが、修学旅行については、北海道、東北は少ない反面、九州は比較的多いとのことである。

4 清水寺への募集型企画旅行の傾向

本章では、募集型企画旅行における清水寺の取り扱いについての傾向を示す。募集型企画旅行とは、いわゆるパッケージツアーで、旅行業者が、広告、パンフレットで募集する旅行商品である。

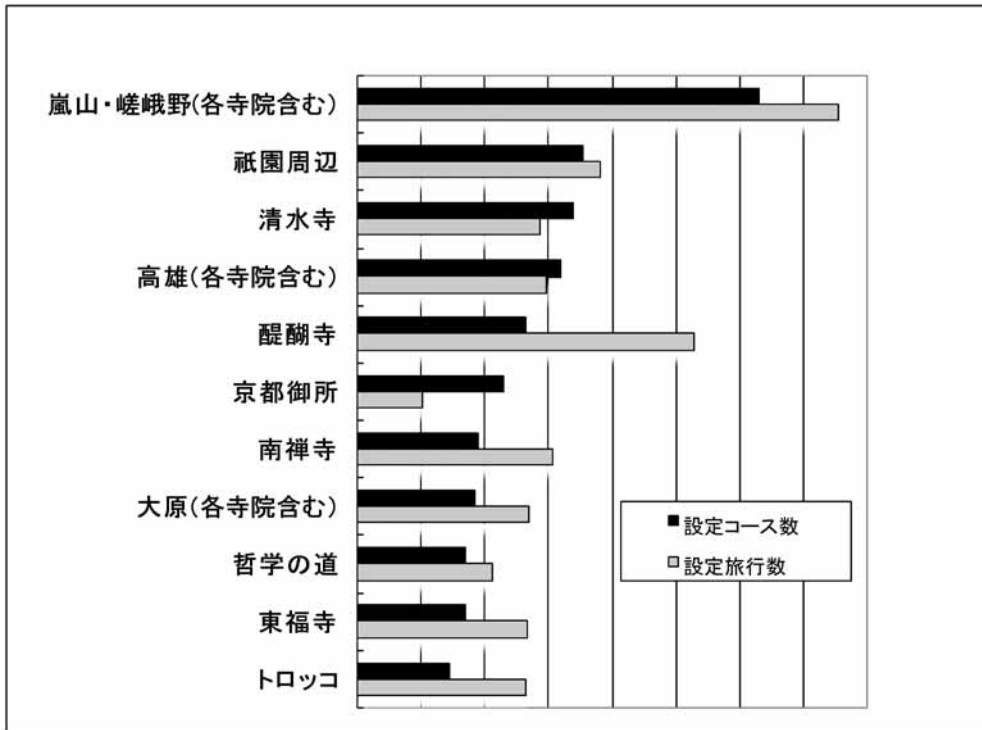
京都市観光調査年報では、「旅行案内利用状況調」の表³⁰から「旅行代理店」の利用状況はみることができるものの、京都市に來訪する観光者がどのような形で旅行業者と関与したかについては表れていない。

そこで、本稿では、まず、京都を目的地として新聞広告に掲載された募集型企画旅行における清水寺の状況をみえる。

観光者が旅行業者に関与する場合、募集型企画旅行を購入する場合だけではない。また、募集型企画旅行の中でも、自由行動を中心とする個人型と主にバスで観光地を周遊する団体型に分けることができる。もっとも、個人型においてもある特定の観光地を訪問する行程を設定しているものもある。京都を訪問する募集型企画旅行については個人型も多いが、募集型企画旅行の広告で京都における個々の訪問地が現れているものは、団体型が中心となる。したがって、旅行業者において清水寺をいかに取り扱っているか、の観察を広告より行った場合においても、団体型の募集型企画旅行が中心となるが、この観察において、現在の主に発地側で企画されている団体型募集型企画旅行における清水寺の位置づけの傾向は、みることができる。

図3は、2004年12月から2005年12月までの間に首都圏で発行された朝日、毎日、読売の各新聞（縮刷版より）に掲載された2005年に催行される募集型企画旅行の広告に出現した観光地の度数を示すものである。表1で示された訪問率は、市内訪問地の中でトップであるが、ここでは、設定コース数で、「嵐山・嵯峨野（各寺院含む）」、「祇園周辺」に次ぎ、設定旅行数では第6番目に位置することになる。

図3 新聞広告における募集型企画旅行の訪問地（催行日基準）



出所：廣岡裕一「金閣寺の観光者」『ホスピタリティ・ツーリズム研究論集』第2号（2008）4頁。

なお、設定コース数は広告に掲載されたコースに訪問地として示されている数を表し、設定旅行数は当該訪問地を含むコースの設定された総出発本数を数えたものである。

次に、市営清水坂観光駐車場に駐車されているバスのフロントにある案内表の観察をもとにバスで来訪した訪問者の傾向をみる。本観察は、2000年から2003年の観光客数の多い11月の休日の午前と午後の時間帯に観察したものである。限られた日の限られた時間のみであるため普遍性を持つとは言い難いが、一定の傾向は捉えられると考える。なお、観察は「主催旅行」が「募集型企画旅行」と表現が変えられた改正旅行業法施行前であったため図表では「主催旅行」としてしている。

表3及び図4をみると、市営清水坂観光駐車場に駐車するバスのうち約1/3が、主催旅行であるが、合算した結果からは午後の時間帯に多い傾向がみられる。一方、修学旅行は午前の時間帯に多い³¹。

図5では、駐車バスの登録ナンバーの過半数は近畿圏以外からであることがわかる³²。近畿圏以外では、中部地方からのバスが多いが、これは、名神高速道路・京都東インターチェンジへのアクセスが容易であることの関連性も考えられる。

また、図6から駐車バスの主催旅行業者は、「近畿日本ツーリスト」「読売旅行」「JTB」で過半数が占められている。

清水寺の観光者

表3 市営清水坂観光駐車場における駐車バスの状況

年	月日	曜日	時間	団体種別						
				主催旅行	一般団体	修学旅行	外国人団体(サンライズ含む)	定期観光バス	自家用	不明
2000年	11月23日	木・祝	11:15~11:25	15	7	0	1	1	1	0
			14:10~14:15	8	5	2	0	0	0	0
2001年	11月23日	金・祝	11:00~11:15	5	4	24	1	0	0	0
			13:50~14:00	5	11	4	0	0	0	0
2002年	11月11日	月	10:55~11:05	1	9	18	1	0	2	0
			13:55~14:10	10	12	5	4	2	0	0
	11月24日	日	11:15~11:35	8	19	11	2	3	0	0
			13:50~14:10	23	12	0	1	5	1	0
2003年	11月24日	月・祝	11:25~11:40	10	11	0	3	3	1	0
			14:05~14:15	16	5	0	1	2	0	0

図4 市営清水坂観光駐車場における駐車バスの状況

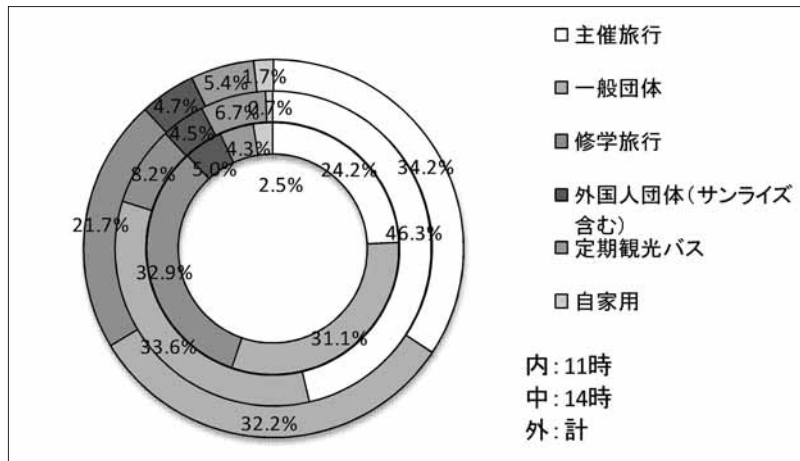


図5 市営清水坂観光駐車場の主催旅行駐車バスの登録ナンバー

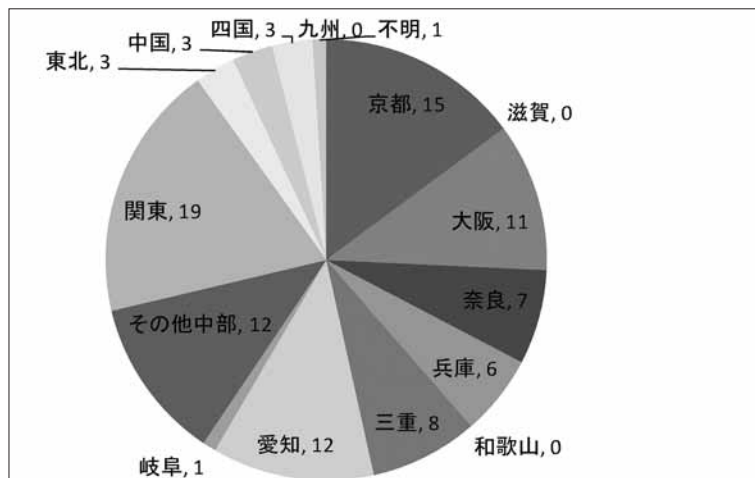
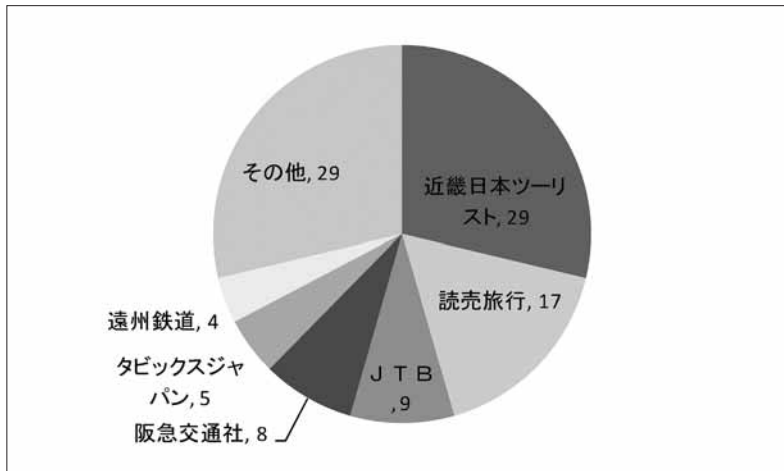


図6 市営清水坂観光駐車場の主催旅行駐車バスの主催旅行業者



5 まとめ

募集型企画旅行では、団体型においてもある拠点を中心に旅行者自身が回遊するコース設定が好まれる傾向がみられる³³。そのため、金閣寺においては、募集型企画旅行（主催旅行）の訪問地となるより個人の観光者により選好されているが³⁴、門前町や東山地域一帯を周遊できる清水寺は、募集型企画旅行においても選好しやすい観光地といえる。この点、新聞広告と駐車バスの状況をみても、金閣寺に比べ募集型企画旅行に選好されていることがわかる³⁵。

募集型企画旅行に限らず、清水寺は、京都市内の観光地の中で訪問率が最も高く、清水寺境界は古来より観光者で賑わってきた。清水寺の訪問率が高いのは、清水寺自体に求心力の強さが、まず前提としてあるが、門前町の存在や東山地域一帯を回遊できる相乗効果により、より求心力を高めていると考えられる。

本稿で示した駐車バスの状況調査は、2000年から2003年に行った。ただ、2004年以降、駐車バスの状況調査は行っていないので、それ以降の状況は確認していない。また、新聞広告の調査は2005年実施の募集型企画旅行首都圏発のものを前提としているので、海外を含め他地域での取り上げられ方は検証できていない。『京都市観光調査年報 平成19年』によれば、京都市内の2007年の宿泊施設利用外国人客数は926,805人で、2003年の450,433人と比べると倍増している。これは、円安やビジット・ジャパン・キャンペーンの影響と見えるが、当然、観光者の状況にも変化が生じていることだろう。事実、昨今の市営清水坂観光駐車場に駐車されているバスのフロントにある案内表をみると、観察を行った2003年頃は少なかった台湾、韓国等のアジア諸国の団体のバスがよくみられる。

このように、変化する旅行環境においては、本稿は、過去の時点における考察といえるかもしれない。一方、募集型企画旅行に限れば、さほど、変化していないとも感じる。今後、さらに、

清水寺を含めた京都への観光者の特性や京都を対象とした旅行商品に関して国内の募集型企画旅行のみならず、訪日する外国人の選好を究明していきたいと考えている。

本稿の執筆に当たって、清水寺学芸員の加藤眞吾氏に清水寺についてのヒアリングを2008年8月18日清水寺寺務所にうかがって行なった。また、株式会社日商社専務取締役谷川隆氏、第4アカウントプランニング部近藤祐二氏に本稿にかかわるお話をうかがうなどご協力を賜った。ここに感謝の意を表させていただく。

- 1 本稿では、清水寺を訪れる者を「観光者」と表す。寺であるため、この表現が、適切でない例もあるかもしれないが、本稿は、清水寺を観光地と捉えた前提で述べているためこのように表現する。なお、『京都市観光調査年報』では、「観光客」という語を用いているため「観光客」と表す場合や文脈に応じ「訪問者」や「拝観者」などと表現する場合もある。
- 2 詳細については3章参照。
- 3 本節は、横山正幸『ガイドブック清水寺』（法蔵館、1996）11-26、102-103頁、清水寺史編纂委員会『清水寺史 第一巻 通史（上）』（法蔵館、1995）141頁、清水寺史編纂委員会『清水寺史 第二巻 通史（下）』（法蔵館、1997）15-17、456-457、462-465、496-497、574、619頁を参照した。
- 4 清水寺を含む世界文化遺産「古都京都の文化財」のAuthenticity（オーセンティシティ）については、廣岡裕一「金閣寺の観光者」『ホスピタリティ・ツーリズム研究論集』第2号（2008）2頁参照。
- 5 「〔二五六〕 さわがしきもの 走り火。板屋の上にて烏の齋の産飯食ふ。十八日に清水に籠りあひたる。暗うなりて、まだ火もともさぬほどに、ほかより人の来あいたる。まいて、遠き所の人の國などより、家の主の上りたる、いとさわがし。
近きほどに火出で来ぬといふ。されど、燃えはつかざりけり。」（池田亀鑑校訂『枕草子』（岩波文庫、1962）280頁）
- 6 「産寧坂」とも表記されるが、本稿では、原則として「三年坂」と表記する。
- 7 横山、前掲書、30 - 31頁。
- 8 『清水寺史 第一巻 通史（上）』、252 - 254頁。
- 9 同上書、342頁。フロイス『日本史』第一部五八章FL. ff. 188 ~ 184（松田毅一、川崎桃太訳『フロイス日本史 3 五畿内篇』（中央公論社、1978）238 ~ 255頁より）では、「都の近傍に、多数の巡礼が訪れる二つの別の寺院がある。その一つを祇園、他を清水という。ここは絶えず巡礼が殺到し、良い水の源泉（でもあり） その地（から）の眺望は素晴らしく、日本中で著名である。」（243頁）とある。
- 10 横山、前掲書、32頁。
- 11 『清水寺史 第二巻 通史（下）』、468頁。
- 12 七味家本舗ホームページ <http://www.shichimiya.co.jp/annai/history.html>（2008.9.14）
- 13 『清水寺史 第二巻 通史（下）』、470 - 471頁；横山、前掲書、32 - 33頁。
- 14 『清水寺史 第二巻 通史（下）』、557頁。
- 15 同上書、558頁。
- 16 同上書、571頁。

- 17 ここでは、「重要伝統的建造物群保存地区」で用いられている「産寧坂」の表記を用いる。
- 18 京都市『産寧坂伝統的建造物群保存地区防災計画策定調査報告書』（京都市，1997）8 - 10頁。
- 19 京都市都市開発局風致課『京都の景観はみんなのもの-産寧坂特別保全修景地区編』（京都市都市開発局風致課，1973）5 - 6頁。
- 20 『清水寺史 第二巻 通史（下）』，589 - 591頁。
- 21 同上書，622頁。
- 22 加藤真吾「清水寺門前町」『京都新聞』2001.4.2，17面，では，田中博武清水寺門前会会長及び大西真興清水寺執事長によるその趣旨の談話を示している。
- 23 『清水寺史 第二巻 通史（下）』，622頁。
- 24 京都市総務局行政改革課事務事業評価ホームページ 事務事業評価票
<http://www.city.kyoto.jp/somu/gyokaku/hyouka/h15/2-2-2-1/1712001.pdf>（2008.9.14）
- 25 東山の「京都・花灯路」は，毎年3月に行われる。来場者数は，2003年；714,000人，2004年；1,069,000人，2005年；1,055,000人，2006年；1,672,000人，2007年；2,256,000人であるが，2006年以降の数は，前年12月の嵐山実施分が含まれる。
 前掲，事務事業評価票他，各年度事務事業評価票
<http://www.city.kyoto.jp/somu/gyokaku/hyouka/h16/kohyo/1712001.pdf>，
<http://www.city.kyoto.jp/somu/gyokaku/hyouka/kensaku/kohyo/h17/1712001.pdf>，
<http://www.city.kyoto.jp/somu/gyokaku/hyouka/kensaku/kohyo/h18/1712001.pdf>，
<http://www.city.kyoto.jp/somu/gyokaku/hyouka/kensaku/kohyo/h19/1712001.pdf>（各2008.9.14）。なお，『京都・花灯路平成19年度報告書』（京都・花灯路推進協議会，2008）15頁，によれば，2008年実施の京都・東山花灯路の来場者アンケート（1295件）では，47.9%が近畿地方以外を出発地としている。
- 26 表1をみると，20代から50代までの各年齢層の訪問率に大差はみられないが，過去6年の同年報をみると若年層に高い訪問率の傾向がみられる。
- 27 2006年は，11月18・19・23・25・26日の5日間であった。（『市民しんぶん』（京都市広報課）第775号（2006.11.1）6頁）
- 28 『京都市観光調査年報平成19年』1頁。
- 29 ヒアリングについては文末参照。なお，清水寺としては，拝観者数は公表していない。
- 30 『京都市観光調査年報平成19年』16頁。
- 31 清水寺でのヒアリングによれば，修学旅行は，朝一番か最後の時間帯に訪問することが多い，とのことである。
- 32 杉野図明『観光京都研究叙説』（文理閣，2007）395頁では，2001年12月2日11時30分から14時までの時間において，主要駐車場における都府県別観光バス台数の調査結果を掲載している。これは，主催旅行に限らず観光バスの総数であるが，清水寺の数は，「京都：7，大阪：5，愛知：5，兵庫：2，奈良：4，岐阜：2，三重：3，長野：1，石川：2，福井：2，山梨：2，和歌山：2，香川：1，岡山：1，徳島：1」で半数が近畿（三重を除く）圏以外からである。
- 33 廣岡裕一「募集型企画旅行における京都観光の考察」『第21回日本観光研究学会全国大会学術論文集』（日本観光研究学会，2006）116頁。
- 34 「金閣寺の観光者」，5 - 6頁。

- 35 新聞広告における募集型企画旅行の訪問地(図3)で、「嵐山・嵯峨野(各寺院含む)」が最も多いのは、下記の理由のほか拠点を中心に旅行者自身が回遊するコース設定がしやすいためと思えるが、「祇園周辺」、「高雄(各寺院含む)」、「醍醐寺」が多いのは募集型企画旅行においては、「桜や紅葉、そして祭や企画されるイベントに求心力を求めて商品企画をしている傾向が強い」(「募集型企画旅行における京都観光の考察」, 116頁) ため一時期に集中して広告が出稿されているためといえよう。もっとも、「祇園周辺」は、旅行者自身が回遊すれば、清水寺に至ることになる。